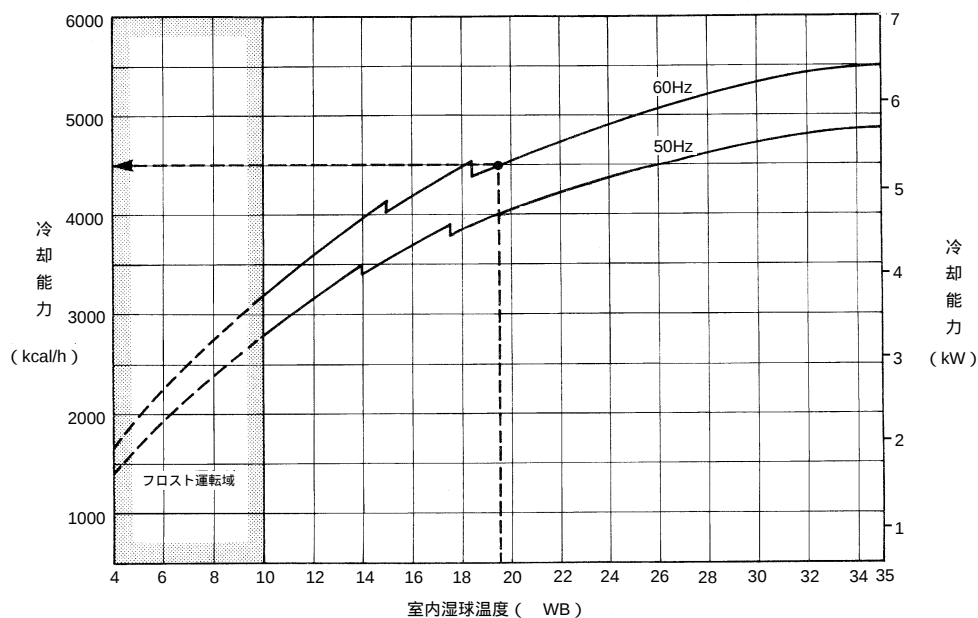


5.6 能力特性

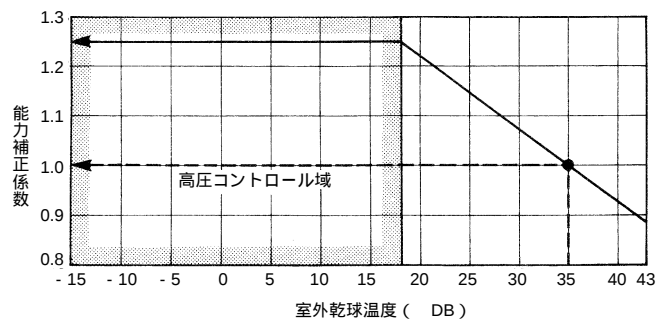
実際の能力は下式により求めてください。

$$\text{実際のユニット能力} = \text{（室内温度条件による能力）} \times \text{（室外温度条件による補正係数）} \times \text{（配管距離による補正係数－室内・外高低差による補正係数）} \times \text{（室内風量変化による補正係数）}$$

（１）室内温度条件による能力



（２）室外温度条件による能力補正



（３）冷媒配管距離及び室内・外高低差による能力補正

（a）配管相当長による能力補正係数

室内・外ユニット間の高低差0mの場合の配管相当超対応の補正係数は下表のとおりです。

相当長 (m)	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
補正係数	1.0	0.995	0.99	0.985	0.98	0.975	0.97	0.965	0.96	0.955	0.95

注) 相当長は下式により計算してください。

但し、相当長として配管距離制限長さ(実長)+5m以内となるよう設置してください。

相当長 = 実長 + (0.1 × 途中配管のベンド数)

（b）室内・外ユニット高低差による能力補正係数

室外ユニットが下の場合のみ配管相当長による能力補正係数から下表の数値を差引いてください。

高低差 (m)	5	10	15
補正係数	0.01	0.02	0.03

（４）室内風量変化による能力補正

風量 (m³/min)	16	18	20	22	24
補正係数	0.97/0.94	1.0/0.97	1.03/1.0	1.06/1.03	1.09/1.06

(50/60Hz)

○ 冷却能力の求め方

(例) 電源周波数：60Hz

室内湿球温度：19.5 WB

室外乾球温度；35 DB

配管距離相当長：30m

室内・外ユニットの高低差：10m（室外ユニットが下）

室内風量：18m³/min

この場合のユニット冷却能力

$$5.23 \times 1.0 \times (0.975 - 0.02) \times 0.97 = 4.84 \text{ kW}$$

室内風量変化による補正係数
室内・外高低差による補正係数
配管相当長による補正係数
室外温度条件による補正係数
室内温度条件による能力

5.7 送風機特性

標準風量

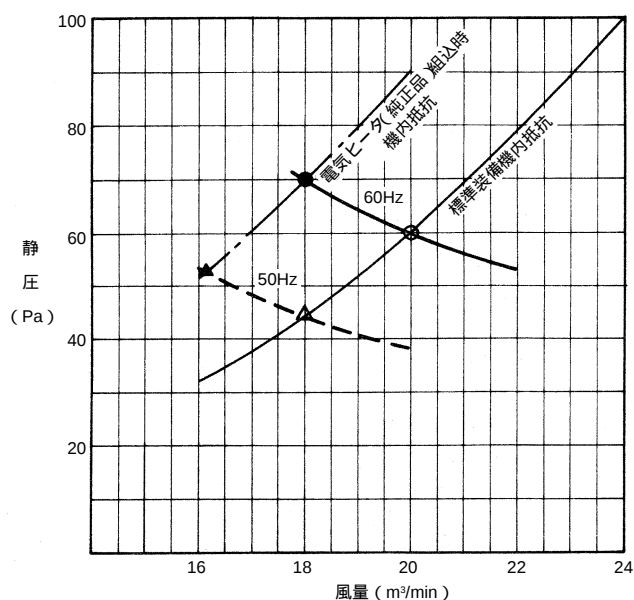
50Hz 18m³/min(印)

60Hz 20m³/min(○印)

電気ヒータ組込時風量

50Hz 16.2m³/min(▲印)

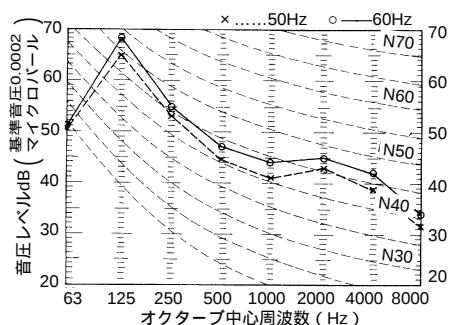
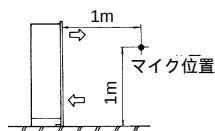
60Hz 18m³/min(●印)



5.8 運 転 音

UEF2A2

測定条件：冷却定格
マイク位置：右図
測定場所：無響室



UEC2A2

測定条件：冷却定格
マイク位置：JISB8615に
準拠
測定場所：無響室

